

2030年の未来を創る、元町中学校の新しい学び

「ふつう」という枠組みを超え、
一人ひとりの多様な輝きを育む教育へ

元町中学校

予測困難な2030年を生き抜くため、教育のあり方を根本から見直す

社会の変化は加速度を増し、
複雑で予測困難に。
(中央教育審議会答申より)



過去のパラダイム：社会の変化に対する
「受け身の対処」では、生き抜くのが難しい時代。

変化を前向きに受け止め、新しい未来を
構想・実現する「創り手」になること。
(新学習指導要領の目指す姿)

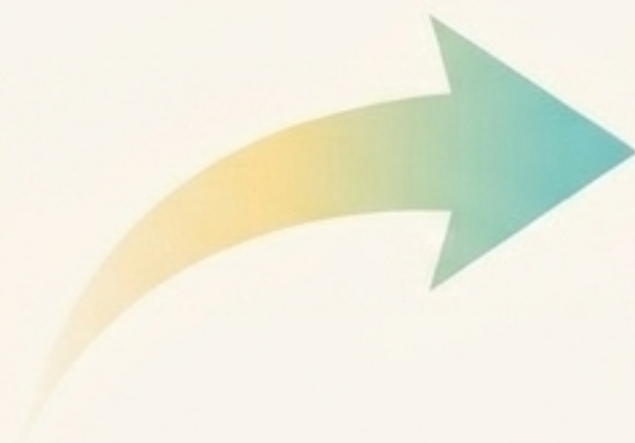


生徒が自らの「よさや可能性」を認識し、多様な人々と協働する力が不可欠です。

「ふつう」という基準を手放し、「みんなマイノリティ」という前提に立つ



従来の学校という社会における「ふつう」を、
批判的かつ前向きに見つめ直す。

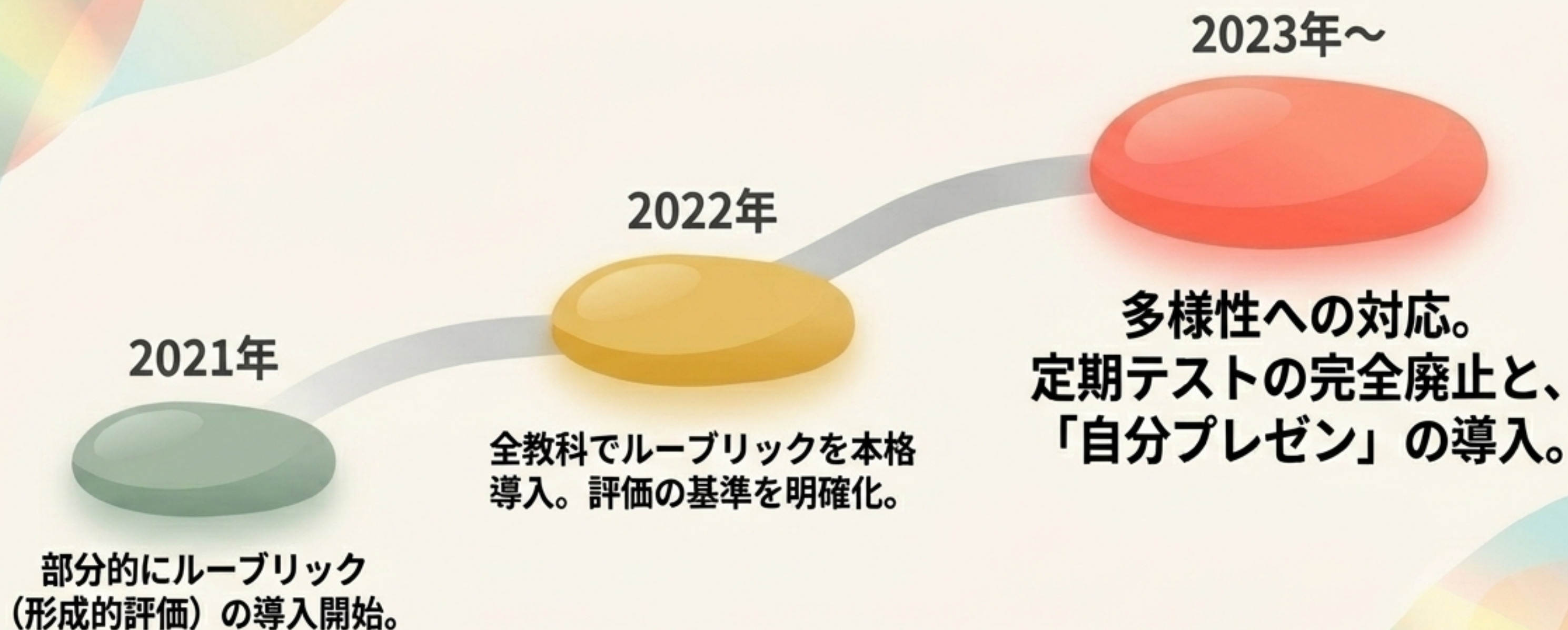


みんな
マイノリティ

「みんな違う」
多様な存在の集まりであるという自覚。

マイノリティを大事にする社会から一歩進み、
「全員がマイノリティである」ことを自覚し、主体的に関わり合う社会の創造へ。

個性を測るため、全員が同じ条件で受ける「定期テスト」を廃止しました



ペーパーテストによる画一的な評価から、
パフォーマンスや作品、レポートを含む「多様な評価」への完全移行。

「量」から「質」へ：評価の解像度を劇的に高める

	従来の評価（量的評価）	元町中の新しい評価（質的評価）
評価対象	ペーパーテストの点数	パフォーマンス、作品、レポート、ペーパーを含む総合的な取り組み
基準のあり方	クラス内の相対的な順位や平均点との比較	ルーブリックを用いた絶対的な到達度
生徒への影響	点数による一喜一憂、受け身の学習	自らの目標として機能し、主体的な成長を促進

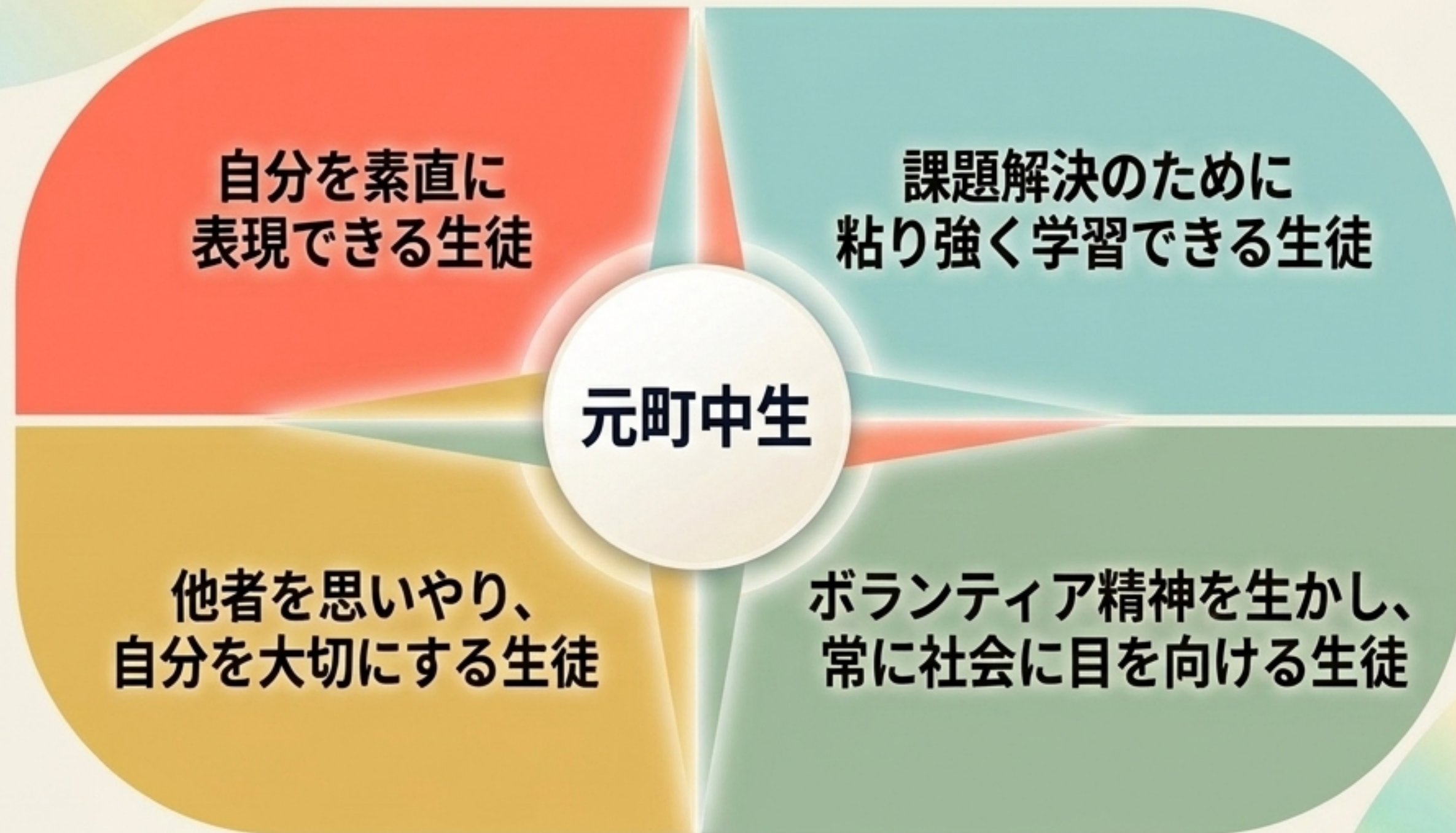
生徒・保護者・教員で共有する成長の「ものさし」

ループリックとは：
何がどの程度、どのような状態
であれば、どの評価が付くかを
一覧にした評価の「ものさし」。
生徒にとって明確な「目標」
となるように設計。

- HPにて、3年間で育てたい「生徒の姿」を基準とした大枠のループリックを公開。
- Google Classroomを通じて、各教科・単元ごとの具体的な基準を生徒と保護者に常時公開。
- 「年間学習評価計画表&記録表」もオンラインで共有。



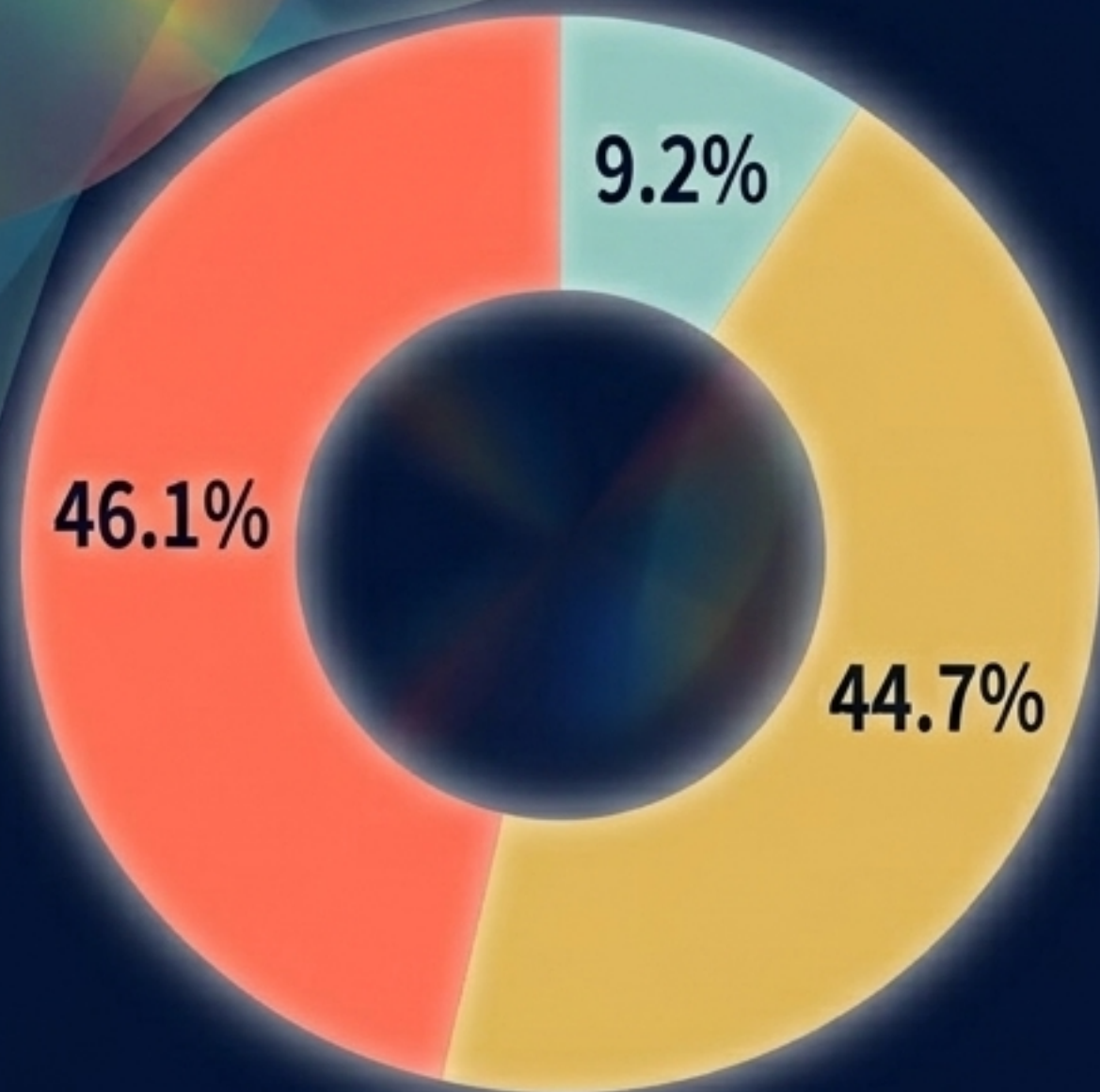
多様な教育活動を通して目指す「4つの生徒像」



この目標を達成するため、元町中学校は日々新たな教育活動にチャレンジしています。

定期テスト廃止後の真実：激変した「高校選択の基準」

2025年度3年生（76名）へのアンケート結果：「何を重要視して志望校を決めているのか？」



- 9.2% - 学力的にやや挑戦になる学校 (挑戦)
- 44.7% - 自分の現在の学力に合う学校 (現状維持)
- 46.1% - 自分と校風が合う学校 (相性)

偏差値や周囲の目ではなく、生徒一人ひとりが「自分にとっての最適解」を冷静に分析している事実。

数字の裏にある、驚くほど成熟した生徒たちの「自己分析」

挑戦：9.2%

「自分の将来を幅広く見られるように、今のうちから努力することを覚え、自分の人生を自由に決めるため。」

現状維持：44.7%

「自分と同じくらいの学力の人と切磋琢磨した方が、楽しく勉強できる。無理しないで過ごすことが大事。」

相性：46.1%

「学力は自分の努力でいくらでも変えられるけど、高校との相性は変えられないから。」

「美術を専門的に学ぶため。美術家を目指しているから。」

単なる「逃げ」ではなく、自己理解に基づいた高度な戦略的選択。

「将来、どんな大人になりたい？」生徒たちの声に見る確かな「芯」

揺るぎない軸

「自分の考えや人生観に軸があって、他人の影響で軸がぶれない人だけど、無礼ではない人。」

「目標に向かって努力できる人。
資格取得や、仕事の目標達成など。」

継続する力

「目標に向かって努力できる人。
資格取得や、仕事の目標達成など。」

「相手の状況や気持ちを考えて行動できる人。
押す式の扉を次の人のために支えるなど、
周りを見て気遣いができる人。」

他者への
思いやり

教員の気づき：なぜ彼らは、これほどまでに自分を深く語れるのか？



教員の視点：2023年度
卒業生とは全く違う、
驚くべき自己理解の深
さと表現力の豊かさを
感じています。

3年間で5回実施した
「自分プレゼン」に
よる自己の言語化

圧倒的な
自己理解の
定着

各授業での質的評価
(ルーブリック)
を通じた客観的
フィードバック

頻繁なレポート課題と
プレゼンテーションの
実施

※家庭での対話やご支援の影響も強く感じています

実績が証明する新しい学びの力：2025年度生の実態

早期・主体的な進路決定（約60%）

通信制課程、私立単願専願、公立自己推薦でいち早く進学先を決定。3月の一般入試を待たず、自らの意思で進路を確定。

公立高校一般入試（約40%）

3月の公立高校一般入試を受験。

一般入試合格率
約**97%**

定期テストがなくても学力は落ちない。むしろ「自分を理解し、伝える力」が現代の入試システムにおいて強烈な武器となっている。

すべての活動が繋がる、「元町中学校の取組の全体像」



公立一般入試が減少傾向にある中、最も重要視される「自分を理解し、自らの考えを他者に伝える力」の獲得。

自己理解こそが、 これからの未来を切り拓く鍵となる

今後、偏差値のみに頼る入試は減少し、
「あなたがどんな人間か」を問われる時代が加速します。

私たちは、生徒全員が自らのマイノリティ性を愛し、堂々と他者と関わり合える
「素敵な社会の創り手」になるよう、3年間かけて伴走します。

保護者の皆様。
希望に満ちた未来を、ともに創り上げていきましょう。
引き続きのご協力をお願いいたします。